

かざ

ぐるま

風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2023 秋号

102

公益財団法人 和歌山県文化財センター

特集

金剛峯寺奥院経蔵の保存修理



特集 金剛峯寺奥院経蔵の保存修理

重要文化財 金剛峯寺奥院経蔵

金剛峯寺奥院経蔵は、高野山の奥之院の最奥、弘法大師が祀られる御廟の東脇に立てられた、檜皮葺きの小さな三間堂です。

正方形平面の正側面に棧唐戸と連子窓が設けられ、和様の出組で軒を受ける、塗装のない白木で簡素な外観となっています。しかし深い軒が宝形屋根を受ける様子は、静謐な奥院にふさわしい優美さを湛えます。

内部の壁面には一転して、極彩色で羅漢図が描かれ、柱頭や長押には華やかな彩色が施されています。また、間仕切りの無い経蔵内部の中央には、輪蔵と呼ばれる経典を納めるための八角形平面の棚が設けられています。心柱を軸に回転する輪蔵には屋根や腰組が設けられており、独立した建物のように精緻に組みまっています。輪蔵の丸柱には仏像や龍が華麗に描かれ、軒を支える組物は尾垂木つきの三つ斗を詰組に並べ、立体的な彫刻が施された琵琶板や木鼻等全体が極彩色で彩られて

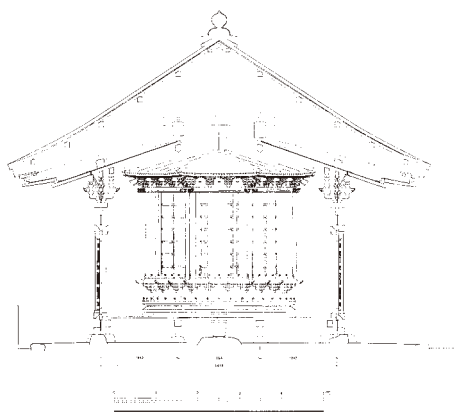
おり、まさに桃山時代の装飾的で華麗な表現に溢れています。



檜皮屋根の葺き替えが完成した奥院経蔵

奥院経蔵の沿革

奥院経蔵は、石田三成によつて慶長四年（1599）に建てられたことが、正面に掲げられる扁額に記された銘文によりわかっています。当時、天正十三年（1585）には羽柴秀吉の紀州征伐で根来寺が焼け落ち、秀吉から降伏を求められた高野山としても、対応に揺れる波乱の時期であったことでしょう。扁額には石田三成が母親の菩提を弔うために建立したことが記されていますが、高野山使僧として秀吉との交渉にたずさわり、和睦をとりまとめた上で金堂や大塔の再興にあたった木食応其が本願であったことも、併せて確認することが出来ます。



経蔵断面図（輪蔵立面図）

表紙写真：上 輪蔵上部見上
下 輪蔵木鼻（海馬）

奥院経蔵の保存修理

奥院経蔵は、重要文化財に指定された建物として昭和五三年に半解体修理が行われ、平成十五年に檜皮屋根の葺き替えが行われています。檜の樹皮を葺き材とする檜皮屋根は、通常25～30年周期で葺き替える必要がありますが、杉の巨木に覆われて陽がほとんどあらず、湿度も非常に高い奥之院に建つ経蔵では、前回の葺き替えから18年経過した時点で屋根面全体で腐朽が進み、修理を行う必要が生じてしまいました。このため、令和二年度からの2か年度の国庫補助事業として、屋根の葺き替え工事とあわせ、彩色の剥離が目立ってきた壁面や輪蔵丸柱の仏面の剥落止め工事を実施することとなりました。

屋根は、杉の枝の落下により西面に穴が開き、鉄板で仮復旧している状況であり、頂部の露盤も野地の腐朽で傾いていたため、事業着手後速やかに素屋根を建設し、建物の破損が進まないよう保護しました。その上で、檜皮屋根を部分的に解体し、野地や小屋組の破損状況を確認し、修理すべき範囲を確定するとともに、内部の彩色の状況を調査したところ、野地や小屋組の腐朽が進んでいることが判明し、屋根工事に伴い大規模な木部修理を

実施する必要があることが確認されました。また、木部修理に伴う振動で、内部の彩色の剥落が進んでしまう可能性が高いことも判明しました。

このため、内部彩色のうち、下地からの剥離が進み、層状剥落の恐れがある部分の仮剥落止めを先行して実施したうえで屋根工事を行い、屋根工事完了後、内部彩色の剥落止めを実施する方針に工程を組み直し、工事を進めることとなりました。



筋状に屋根面が窪んだ状況（金剛三昧院経蔵）

奥院経蔵の屋根工事

屋根面は、野垂木の間の部分が筋状に窪む、他の地域ではあまり見かけることのない特徴的な破損状況となりました。

奥院経蔵と同時期に檜皮屋根の葺き替え工事を実施した金剛三昧院経蔵でも、同様の破損が起こっていました。金剛三昧院で檜皮屋根の解体を進めたところ、素屋根で覆って2週間ほど雨に濡れることもなかったのに、檜皮材は底部まで濡れた状態となっていました。



木舞や野垂木の腐朽状況（奥院経蔵）



檜皮屋根葺き上げ状況（奥院経蔵）

た。水に強い檜皮材自体は腐ってはいませんが、檜皮材を打ち止めるための木舞（横方向の栈木）が腐ってしまったため、野垂木の間で檜皮面が溝状に垂下して雨水がたまり、さらなる漏水の原因となっていたことが判明しました。

このため、より長く檜皮屋根を保全するために、修理にともない周辺樹木の整枝を行い、完成後も定期的に屋根面を清掃するなど環境の改善を図るとともに、取り替えた木舞や野垂木にはより腐朽に強い赤身材を使用するとともに、防腐処理などの対策を施しました。

奥院経蔵の塗装工事

奥院経蔵の内部に施された塗装は、輪蔵の垂木や腰壁板など中古に取り替えられた部分を除き、建立時に施された彩色が残されています。本来輪蔵は、経蔵の中に人が入って回転させることで、輪蔵に納められた高麗版一切経を読経すると同じ功德が得られる、というチベット仏教のマニ車と同じ性格を持つ施設ですが、実際にはあまり使用されずに扉を閉じきった状態で守られてきたのか、顔料が色褪せることなく、当時の色彩を鮮やかに今に伝えます。

しかし、修理前には塗装面全体に霞がか



輪蔵の仏画と唐草

かったような状態になっていました。

彩色修理の担当者による仮剥落止め施工にあわせ、東京文化財研究所の専門家の指導も受け、壁画や輪蔵全体の彩色の状況を調査したところ、塗装表面が埃などで汚れているだけで無く、カビに覆われた部分もあることが判明しました。また過去の剥落止めで使用された合成樹脂が彩色表面に析出して白化した箇所が認められたほか、輪蔵全体で彩色の剥離や粉状化が進んでいることも判明しました。このため、文化庁の承認を得た上で令和四年十二月まで工期を延長し、輪蔵全体に施工範囲を広げ、彩色面の剥落止めとクリーニング、防カビ対策を実施することとしました。



カビの発生状況（腰組の肘木、巻斗）

剥落止めの施工は、接着材である膠（にかわ）を適切に効かせるために、気温が20℃を下回らない時期に施工する必要があります。このため山間部の高野山では7月から9月と限定的な期間しか施工することができません。一方でカビは25～30℃、湿度70%以上で旺盛に繁殖しますが、同時期の堂内の湿度を測定したところ、80%を下回ることがほぼ皆無、と絶望的な環境下で施工を進める必要があることも判明しました。

また、使用する防カビ剤によっては、顔料（がんりょう）に変色など発生する可能性があるため、事前



彩色のクリーニング施工状況

に奥院経蔵で使用されているものと同じ顔料、染料を使用した試験用手板（合計28枚）を作成し、防カビ剤の影響、効果を検証した上で、使用する薬剤や濃度を決定するなど、万全を期して施工しました。

カビが発生する可能性の高い剥落止めの施工は、エタノール噴霧などの殺菌作業と併せて実施し、最期に防カビ剤の塗布を行う方針とし、施工時には送風機による強制換気を行うとともに、堂内に除湿剤を設置するなど、細心の注意と対策を講じながら、施工を完了しました。



彩色と同じ環境下（輪蔵棚上）での防カビ剤試験状況

おわりに

今回の修理では、破損が通常見ることができない部分で進行していたことがわかり、下地にまで細心の注意を払う必要があることを、改めて肝に銘じる工事となりました。

また剥落止めは、狭く薄暗い堂内で数ヶ月の間淡々と彩色と向かい合う地道な作業です。その中で、壁画の下書きや色指定のメモなど桃山時代の画工の息遣いを感じる発見もあり、四百年の時を繋ぎ、ひたむきな情熱が重なる至福の時に立ち会うことが出来ました。

（多井 忠嗣）



東郷遺跡の発掘調査

令和4年12月5日から令和5年4月11日にかけて、当文化財センターでは和歌山県より委託を受け、江川小松原線通学路緊急対策事業に伴う東郷遺跡の発掘調査を実施しました。

東郷遺跡は和歌山県中部に位置する御坊市と、御坊市の東側に隣接する日高郡日高川町にまたがる弥生時代の集落として知られている遺跡です。遺跡は日高川下流の右岸にあります。過去に何度か発掘調査が行われており、その時は弥生時代中期から後期、後期末から古墳時代前期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、溝、土坑などが発見されたほか、弥生土器や古墳時代の土師器、須恵器などが出土しています。これまでの発掘調査の成果から、東郷遺跡で弥生時代から古墳時代前期に人々が暮らしていたのは遺跡中央から南を中心とする範囲だったと考えられています。また、出土した弥生時代末から古墳時代にかけての土器

には、他の地域で生産されたと考えられるものが多く含まれており、当時の日高川下流域の人々と他地域の人々との交流を考える上で重要な資料と考えられます。

今回の発掘調査を行った場所は東郷遺跡の北東端で、これまで発掘調査が行われてこなかった場所になります。調査区は、安珍清姫伝説の舞台として知られる古刹、道成寺から南東に約400mの地点です。県道の南側に位置する1区と北側の2区に分けて発掘調査を行いました。



1区で確認した大型の土坑

1・2区ともに土坑や溝、小穴などの多数の遺構が確認でき、中には大型の土坑もあり

ました（写真）。他にも1区と2区で同一の遺構と推定できる溝もあり、周囲の遺構の検出状況などから何かを区画する溝であったと考えられます。

今回発見した遺構出土の遺物は極めて少ないですが、土層などと合わせて総合的に検討した結果、これらの遺構は中世（鎌倉～室町時代）のものと考えられます。一方で中世の建物跡やこれまでの調査で発見された弥生時代や古墳時代の遺構などは確認することができませんでした。

今回の調査では中世における東郷遺跡の様子的一端が明らかとなるとともに、遺跡の北東にあたる縁辺部の様子が明らかとなりました。遺構の多さから活発な人々の営みが考えられる一方で、建物跡などの遺構が確認できなかったことから、今回の調査地から西側に中世の人々が生活した集落が存在していた可能性が考えられます。

（濱崎 範子）

現在、当文化財センターは和歌山県立紀伊風土記の丘の敷地内に事務所を構えています。ここから車で10分ほどの所に松下電器産業株式会社(現パナソニック)創業者である松下幸之助氏の生誕地があります。和歌山市街地に移った氏は、筆者が約50年前に卒業した雄湊小学校(合併前の雄小学校)に通いました。ちなみに、博物学者の南方熊楠はこの小学校の第一期生です。氏は優れた事業家であると同時に、教育・文化・体育・社会福祉等多分野にわたり発展向上に尽力されました。



紀伊風土記の丘松下記念資料館

紀伊風土記の丘には氏が寄贈した国の登録有形文化財の「紀伊風土記の丘松下記念資料館」があり、昭和46年竣工の鉄筋コンクリート造平屋建の博物館施設です。青石貼りの壁・銅鐸文様の面格子など古代から着想を得た、モダニズムを基調とした建物で、ポリウムを抑えた外観は特別史跡岩橋千塚古墳群のある背後の山の景観に馴染んでいます。

和歌山市内にはこの資料館のほか松下会館、松下体育館、松下公園、和歌山城紅葉溪庭園の茶室「紅松庵」など氏が寄贈した施設があります。また、和歌山県庁舎本館など国の登録有形文化財の鉄筋コンクリート造の建物があり、今後指定または登録される非木造の建造物が増え、いずれこれらの建物も修理が必要となる時が来ます。

当文化財センターが今まで修理に携わってきた建物はほとんどが木造です。非木造の修理では木造と異なる知識や技術が必要となります。前号で新任の挨拶を記した野田君には、どんな構造の建物にも対応できる修理技術者になれるよう研鑽を積んでほしいものです。(寺本 就一)

きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

天平元年(729)に左大臣の長屋王が謀反を企んだ罪で自殺に追い込まれます。「長屋王の変」と呼ばれる有名な古代の出来事です。皇族である長屋王の邸宅は平城京(現在の奈良県奈良市)にあり、過去の発掘調査で多くの木簡が出土したことで知られています。

長屋王が亡くなった理由を『日本霊異記』中巻第一縁では大規模な寺院の法要で僧侶の食事を世話する係に任命されていた長屋王が、食事をもらおうと炊事場に入ってきた僧侶の頭を持っていた笊で叩くという、僧侶を軽んじたことへの罰であるとしています。その後長屋王の遺体は最初土佐国(現在の高知県)に葬られましたが、崇りで人々が亡くなるので土佐国より都に近い紀伊国海部郡椒枅村の奥の嶋に改めて埋葬したとされています。

有田市の沖合に地ノ島、沖ノ島と呼ばれる無人島があり、その対岸である海浜部に古墳1基が残っています。明治41年に発掘され、現在、椒古墳と呼ばれるこの古墳こそが『日本霊異記』に書かれた長屋王の墓だと長年信じられてきました。

しかし、調査の結果、椒古墳は現在では後円部のみが残っています。しかし、調査の結果、椒古墳は現在では後円部のみが残っています。枕などの出土遺物から5世紀ごろに造られたと考えられます。ということは、残念ながらこの古墳は8世紀前半に亡くなった長屋王の墓とは言えません。



現在の椒古墳の様子

長屋王の墓が和歌山県にあるとしているのは『日本霊異記』だけなので、創作である可能性もあります。でも、もしかしたら…今でも見つからずに長屋王は和歌山県のどこかに眠っているのかもしれないね。

(濱崎 範子)

催し物案内

和歌山県内の文化財関係イベント情報（2023年秋～2023年冬）

和歌山県立紀伊風土記の丘

- 秋期特別展「律令国家成立前夜－紀伊と古代氏族－」
2023年9月30日（土）～2023年12月3日（日）
- 特別展関連講座①
2023年10月15日（日） 13：30～16：30
- 特別展関連講座②
2023年10月22日（日） 13：30～16：30
- 風土記まつり
2023年10月29日（日） 10：00～15：30
- 特別展シンポジウム
2023年11月5日（日） 13：30～16：30
- 特別展関連講座③
2023年11月19日（日） 13：30～16：30

和歌山県立博物館

- 生誕850年記念特別展 紀州・明恵上人伝
2023年10月14日（土）～11月26日（日）
- 企画展 高野山寺領の村
2023年12月16日（土）～2024年2月12日（月・祝）

和歌山市立博物館

- 企画展 ヘンリー杉本の描いた日系人収容所
2023年9月16日（土）～10月9日（月・祝）
- 特別展 葛城修験の世界
2023年10月28日（土）～12月10日（日）

（公財）和歌山県文化財センター

- 和歌山県内文化財調査成果展 紀州のあゆみ【会場：紀の川市歴史民俗資料館】
2023年11月8日（水）～12月17日（日）
- 地宝のひびき 和歌山県内文化財調査成果報告会2023【会場：紀の川市歴史民俗資料館】
2023年11月12日（日） 13：00～16：50

※掲載内容は変更される可能性があります。詳細や講座の受講方法については各施設へお問い合わせください。

目次

- 1 表紙
- 2 特集「金剛峯寺奥院経蔵の保存修理」
- 6 埋蔵文化財課 短信「東郷遺跡の発掘調査」
- 7 きのかに歴史小話「文化財建造物課 和歌山の建物とゆかりの人物（1）」
「埋蔵文化財課 『日本霊異記』と和歌山（2）」
- 8 催し物案内

風車102（2023・秋号）

令和5年9月30日

（公財）和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp/>

（公財）和歌山県文化財センター

【事務局】 〒640-8301 和歌山市岩橋1263 番地の1
TEL 073-472-3710 FAX 073-474-2270
kanri-2@wabunse.or.jp



LINE公式アカウント

ID : @942tjyhk

